

2015年11月30日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

< 発表 >

・ 映画「杉原千畝」公開

12月5日土曜より、映画「杉原千畝 スギハラチウネ」が公開される。戦後70年ということを意識して製作に当たり、感動的な作品に仕上がった。ぜひ劇場でご鑑賞いただきたい。

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率データ

先週は年間42回目の三冠王。月間視聴率は24カ月連続三冠王で、今年11回目である。

・ 年末年始の特番編成に関して

年末年始に関しては、大晦日と言えあの番組、元旦と言えこの番組、というような恒例番組の定着を意識して編成した。あとは中身の充実した番組を放送するということに尽きる。

・ 今年一年を振り返って

エリアではスポット収入が前年に達しない月が多いなど、テレビ業界全体としてはなかなか厳しい1年だった。もうひとつはインターネット配信に関し、非常に大きな転機の年であった。

そういった中でテレビ各局はTVerという新しい事業に挑戦した。日本テレビには、それ以前から独自に取り組んでいた見逃し配信や、有料課金のHuluなどもあり、それらの事業をさらに強化すべきだと痛感した1年だった。

番組に関してはかなりの週で三冠王を獲得できたということで、視聴者のみなさんに支持される番組を作ることができたと思っている。ただ視聴率は年の後半に、前半ほどの勢いがなかった感じがするので、改めてきちんと振り返り、来年に臨んでいきたい。個々の番組については、制作現場の力を信頼しており、任せている。

2. 営業状況

・放送収入

放送収入については、10月はタイム、スポットとも前年比で微増。単発ではラグビーワールドカップ2015の売り上げが寄与している。市場は厳しいがまずまず順調だった。

・放送外収入

映画は10月31日公開の「俺物語!!」が30日間で約65万人の観客動員で好調。9月19日公開の「ヒロイン失格」は206万人の動員で、予想を上回る大ヒットだった。「バケモノの子」は終了したが、136日間で453万人の動員があり、こちらも大ヒットした。

公開中の「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展 「印象、日の出」から「睡蓮」まで」は、9月19日から12月13日まで開催。これまでの64日間で入場者は62万人を超えた。1日の平均入場者数は9,690人で、毎年開催している大型美術展の平均入場者数では、過去最高の水準である。

3. その他

・動画市場に関して

TVerのサイトがオープンしておよそ一ヶ月経つが、私たちの想定以上に早く100万ダウンロードを達成した。TVerのスタートによって、インターネットで動画を見るという視聴習慣が拡大し、マーケットも広がればいいと思う。TVerに関してはまだ始まったばかりなので、市場動向を丁寧に分析し、様子を見ながら進めたい。

一方のHuluは、課金事業であり、TVerとは直接競合しないが、有料動画配信市場もその刺激を受けて活性化すると思う。Netflix、Amazonも動画配信を始め、既に事業を開始していたdTV等々もこれまで以上に活発にPRに力を入れているように思う。そういったこともあつてか、Huluを見る限りでは市場は拡大していると受け止めている。

またHuluに関しては、まとめて見られるという利点があるので、TVerで1週間限定の見逃し配信を見たのち、全部を見たい時はHuluに入るということは考えられる。また「フジコ」に見られるような、地上波と異なる表現手段については、結果をよく分析して次の作品づくりに生かしていければと思っている。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員

小杉善信 取締役 専務執行役員

丸山公夫 取締役 専務執行役員

(了)